

第五回 堅磐事業検討委員会 議事概要

(1) 日時 平成 25 年 8 月 29 日 (木) 14:00～15:30

(2) 会場 常陸河川国道事務所 G 会議室

(3) 出席者 別紙のとおり

(4) 議事概要

①出席者の確認

- 7名の委員全員の出席により委員会規約第3条第2項の規定により委員会が成立していることを報告。

②第四回堅磐事業検討委員会議事概要について【資料1】

- 事務局より資料1に基づき第四回堅磐事業検討委員会議事概要について説明。
- 審議結果
 - 第四回堅磐事業検討委員会議事概要について了承された。

③堅磐地区河道掘削工事の経過について【資料2】

- 事務局より資料2に基づき堅磐地区河道掘削工事の経過について説明。
- 審議結果
 - 堅磐地区河道掘削工事の経過について了承された。

④モニタリング調査結果について【資料3】

- 事務局より資料3に基づきモニタリング調査結果について説明。
- 審議結果
 - モニタリング調査結果について了承された。
 - 委員からの主な意見、質問等とその回答は以下のとおり。
 - ◆ 質問：今年度のサギ類の総個体数は、過年度と比較して減少しているように見えるが、一般的な変動幅の範囲と考えて良いのか。
 - ▶ 回答（徳永委員）：大学で春に調査している結果では、平年並みである。また、減少しているように見える平成25年の結果は、統計的には有意に減少しているとは考えられなかった。そのため、今回の結果をもって、サギ類が減少しているとは判断できない。
 - ◆ 意見：茨城県水産試験場では、堅磐地区において800m²程度の範囲で調査を実施している。資料ではアユの産卵床調査結果が平成23年、平成24年ともにゼロであるが、試験場の調査では低いレベルではあるが産卵が確認されている。今後も継続して調査を実施して欲しい。
 - ◆ 質問：アユの産卵床調査で堅磐地区以外の地点は、どういう傾向であったか。
 - ▶ 回答：3箇所の代表地点のうち、産卵が確認されたのは30.5kの辰ノ口のみであり、10月に生卵（発眼なし）が708,934個、11月に生卵（発眼なし）が122,206個、生卵（発眼あり）が2,317,538個確認されている。また、16地点のその他地点のうち、産卵が確認された地点は、計6地点で久慈川本川のNo.1、2、6、7、8と里川のNo.12で確認された。

⑤H25 堅磐地区河道掘削工事等について【資料 4】

- 事務局より資料 5 に基づき H25 堅磐地区河道掘削工事等について説明。
- 審議結果
 - H25 堅磐地区河道掘削工事等について了承された。
 - 委員からの主な意見、質問等とその回答は以下のとおり。
 - ◆ 質問：平成 25 年の施工個所の規模はどれくらいか。
 - ▶ 回答：掘削箇所は、横断方向が約 100m、縦断方向が約 55.9m、掘削深が約 2.5～3.0m である。伐採箇所は、4,000m²の実施を予定しているが、実際には施工予定範囲内で樹木が生えている箇所を対象に実施するため、詳細な寸法は現段階では決められない。施工予定範囲は、横断方向が約 50m、縦断方向が約 100m 程度である。
 - ◆ 質問：横断方向の掘削幅が、平成 22 年と比較して減少しているが何か理由があるのか。
 - ▶ 回答：平成 23 年以降、掘削範囲が狭くなっている範囲は、民地であり、施工できていない。将来的には実施したいと考えており、現在用地交渉中である。
 - ◆ 質問：民地の箇所が今年度中に取得出来た場合には、今年度の施工範囲、工程が変わってくるのか。
 - ▶ 回答：今年度は、資料の施工範囲、工程どおりに進捗させることを予定している。工事の進捗に応じて施工範囲、工程に変更がありそうな場合には、事前に説明させて頂く。
 - ◆ 質問：平成 25 年 9 月から工事開始だが、出水期間中で問題とならないか。
 - ▶ 回答：出水期間中は、もちろん堤防等の工事は実施しないが、河川の流れを阻害しない樹木の伐採・除根や運搬路等に鉄板を敷くことは実施できると考えており、その作業を 9 月から予定している。

⑥今後のモニタリング計画について【資料 5】

- 事務局より資料 5 に基づき今後のモニタリング計画について説明。
- 審議結果
 - 今後のモニタリング計画について了承された。
 - 委員からの主な意見、質問等とその回答は以下のとおり。
 - ◆ 質問：モニタリング調査の内容はこれまでと変わらないか。
 - ▶ 回答：同様の調査を予定しており、報告できる内容も今回と同様になると考えている。
 - ◆ 質問：東日本大震災により堅磐地区は、どの程度地盤沈下したか。また、震災前後で塩分の遡上量は、変化したか。
 - ▶ 回答：堅磐地区では、30cm 程度地盤沈下している。塩分の遡上量も震災前と比較して多くなっている。
 - ◆ 意見：今回実施しているアユの産卵床調査などは、工事のモニタリングのみならずその他の震災による影響など他の観点からも活用できる調査である。
 - ◆ 質問：サギ類の傾向についてご意見を頂きたい。

- ▶ 回答（徳永委員）：平成 25 年のサギ類の総個体数は、減少しているように見えるが一番減少しているのはアマサギである。アマサギは、全国的にも減少傾向である。また、アマサギは渡り鳥であり、堅磐地区のコロニーを形成しているメインの種ではないため、今年度の減少しているという結果について深刻な減少とは受け取っていない。ただし、コロニーが消滅する場合はいつの間にか減少していたということがあるので注意する必要がある。もう一つ、コロニーが消滅する場合には、前回いた場所を中心にコロニーが形成されることがあるので、これまで同様に堅磐地区の周辺でコロニーの分布調査を実施された方が良い。今年度までは、堅磐地区以外にコロニーが形成された様子はないので、安心できる材料ではある。

⑦その他

- 次回の委員会は、今年度と同様に工事の前に予定しているが、詳細な日程については委員の方などのご都合に合わせて調整させて頂く。

以上

第五回 堅磐事業検討委員会

出欠表

日時 平成 25 年 8 月 29 日 (木)

14:00~15:30

会場 常陸河川国道事務所 G 会議室

(1) 委員

	氏名	所属	出欠
委員	池野 進	日本野鳥の会茨城県 会長	○
	小菅 次男	茨城生物の会 会長	○
	清水 信宏	茨城県水産試験場内水面支場 支場長	○
	◎武若 聡	筑波大学システム情報工学研究科 教授	○
	多田 恒雄	久慈川水系環境保全協議会 委員	○
	徳永 幸彦	筑波大学生命環境系生物科学専攻 准教授	○
	山口 萬壽美	河川水辺の国勢調査 (鳥類) アドバイザー	○

敬称略 五十音順、◎：委員長

(2) オブザーバー、事務局

	氏名	所属	出欠
オブザーバー	高杉 則行	久慈川漁業協同組合 代表理事組合長	欠席
	柏 正裕	那珂市 市民生活部 環境保全課 環境グループ 課長補佐	○
	石崎 牧生	日立市 都市建設部 都市整備課長	○
	堀口 幸司	常陸太田市 建設部 建設課 課長補佐	○
事務局	久保田 一	常陸河川国道事務所 所長	○
	辰野 剛志	常陸河川国道事務所 副所長	○
	堀内 輝亮	常陸河川国道事務所 工務第一課長	○
	鈴木 雅史	常陸河川国道事務所 調査第一課長	○
	荒川 佳子	常陸河川国道事務所 久慈川下流出張所長	○
	小池 亨	常陸河川国道事務所 調査第一課 専門官	○

敬称略